

背景

阿寒湖地域では近年、国の様々な施策を背景にインバウンドの誘致に向けた取組が計画的に実施されています。また、当森林事務所は阿寒湖市街地を一部含む約17,000haの管轄面積を有し、国有林野の利用における「地域の窓口」としての役割が期待されています。

現状を踏まえ、昨今の阿寒湖地域における国有林野の利用事例から、地域の行政機関として森林事務所が果たすべき役割について考察しました。



阿寒湖畔から望む雄阿寒岳

事例

CASE. 1

背景

「阿寒湖のマリモ」と「水源」の保全推進

取組

地元自治体の釧路市と根釧西部森林管理署の間で「阿寒湖のマリモと水源林の保全に関する森林整備協定」を締結

結果

阿寒湖地域で地域共催の植樹祭を開催
森林の公益的機能の高度発揮



エゾマツの植樹

CASE. 2

背景

阿寒摩周国立公園の利用促進

取組

昨夏開催されたカムイルミナ「阿寒湖の森ナイトウォーク」における当該公園の保護と利用の在り方等の検討について、地域の一員として参画

結果

既設遊歩道を利用したプロジェクトクシオンマッピングの実施にあたり、野生動植物や景観の保全に配慮



【MOMENTFACTORY社 提供】



CASE. 3

背景

大型台風発生に伴う倒木等による遭難増加の懸念

取組

登山シーズン前の雄阿寒岳において、環境省や警察など関係機関と共にルートの特示や倒木撤去を実施

結果

利用者の安全確保
山岳遭難の未然防止



歩道を塞ぐ風倒木



撤去後

CASE. 4

背景

エゾシカによる農林業被害の深刻化

取組

（一財）前田一步園財団の協力による囲いワナの見学会や当森林事務所部内でエゾシカ捕獲事業を実施

結果

地域連携を含めた効果的な事業、課題解決に前進



センサーカメラ画像



捕獲事業の見学

考察

上記は一例であり、地域では様々な課題に対する新たな取組や検討が期待されます。

地域と森林事務所の相互理解がなければつながりは一過性に過ぎず、コンセンサスの形成や本来のニーズを把握することは困難になります。地域に根ざす森林事務所を実現するためには、地域に対する深い理解と信頼関係の構築が不可欠と考え、国有林の最前線として取り組んでいます。